

2019年度まちづくりネットモニター第6回調査結果 テーマ「多文化共生」

国では、2018年12月に「外国人材の受入れ・共生のための総合的対応策」を策定し、外国人との共生社会の実現に向けた環境整備を進めております。
本市においても、「多文化共生のまちづくり」を進めておりますが、今後、外国人住民に係る状況は一層変化していくことが見込まれるため、多文化共生施策の更なる推進に向け、アンケートを実施いたしましたので、その結果についてお知らせします。
(国際政策課)

調査概要

- 調査期間 令和元年7月5日(金)～7月14日(日) (10日間)
- 回答方法 専用ウェブサイトから回答を送信する。
- モニター数 360名 (男性 159名 女性 201名)
- 回答者数 331名 (男性 151名 女性 180名)
- 回答率 91.9%

【分析】

《回答者内訳》

(人)

年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	合計
男性	4	5	14	33	29	21	38	7	151
女性	3	9	46	70	36	14	2	0	180
合計	7	14	60	103	65	35	40	7	331

《在住外国人の状況》

通りで外国人を見かけたり、お店で働く外国人を見かけるなど65% (216人) が増えたと感じている。そのうち、外国人と付き合いがある方は、17%程度となっている。また、付き合いがない方262人のうち61.1%があいさつや友達づきあい等をしたいと考えている。

《外国人が増えるメリット・心配や不安》

[メリット]

- ・外国の言葉・文化を知る機会が増える (60% : 198人)
- ・外国のことに興味を持つようになる (53% : 175人)

[心配や不安]

- ・ルールや習慣を知らずにトラブルが起きてしまうこと (77% : 254人)
- ・犯罪や不法滞在が増えるかもしれないこと (59% : 196人)

《多文化共生について》

・認知度

78% (257人) が「知らない」という結果となった。

・多文化共生のまちづくりに必要なこと

「あいさつや言葉を交わすこと」 (51%)、「国際交流イベントに参加する」 (43%)

・郡山市がすべきこと

「日本人と外国人の交流会やイベント、意見交換の機会の提供」 (56%)

【考察】

・在住外国人の状況については、外国人が増えていると感じている方が多いが、実際に付き合いがある方は少ない状況である。

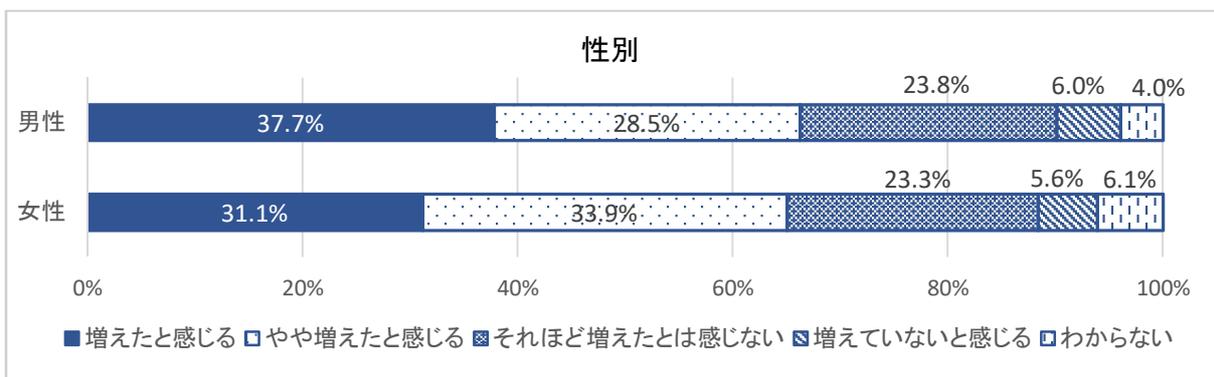
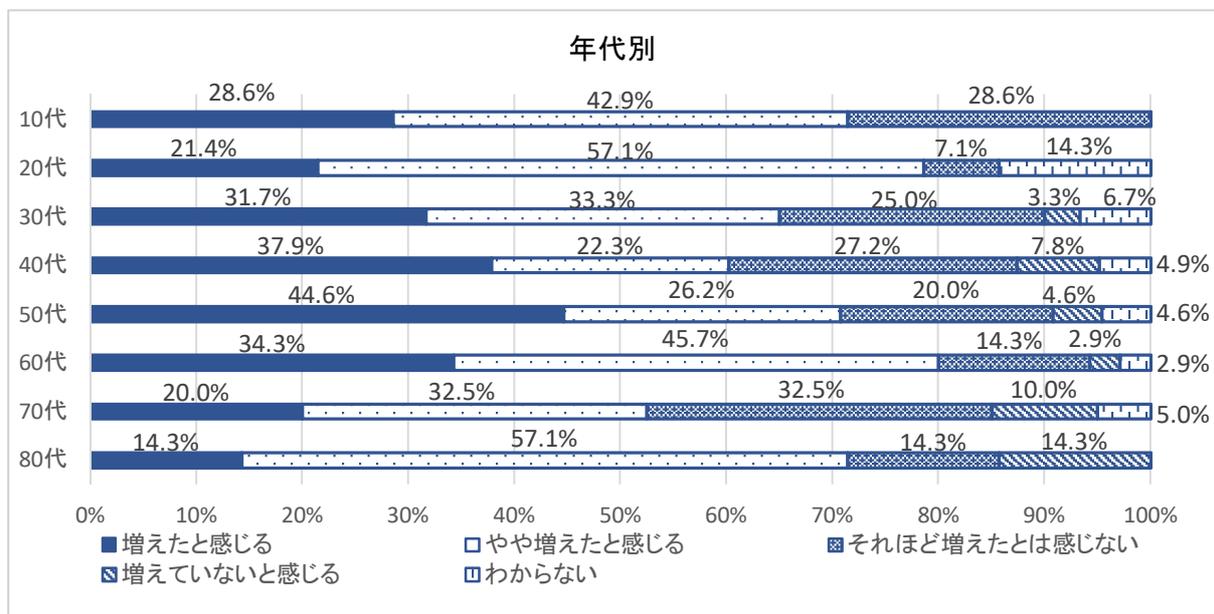
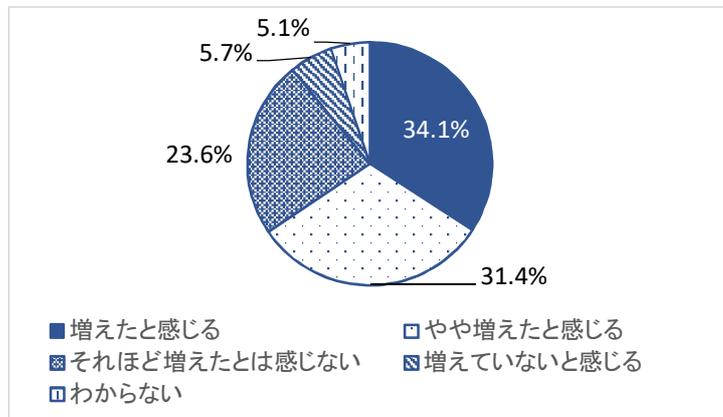
・外国人が増えることのメリットは、「外国の言葉・文化を知る機会が増える」、「外国のことに興味を持つようになる」などの異文化理解についての回答が多かった。一方、心配や不安については、「ルールや習慣を知らずにトラブルが起きる」、「犯罪や不法滞在が増えるかもしれない」と安全・安心に不安を感じる意見が多かった。

・多文化共生についての認知度が低いことから、「日本人と外国人の交流会やイベント」などを通じて、相互理解の促進や「多文化共生」の意義を理解していただくように努めたい。

第1章 日常生活における外国人との交流について

問1 あなたは、地域に居住する外国人が増えたと感じますか？（1つ選択）

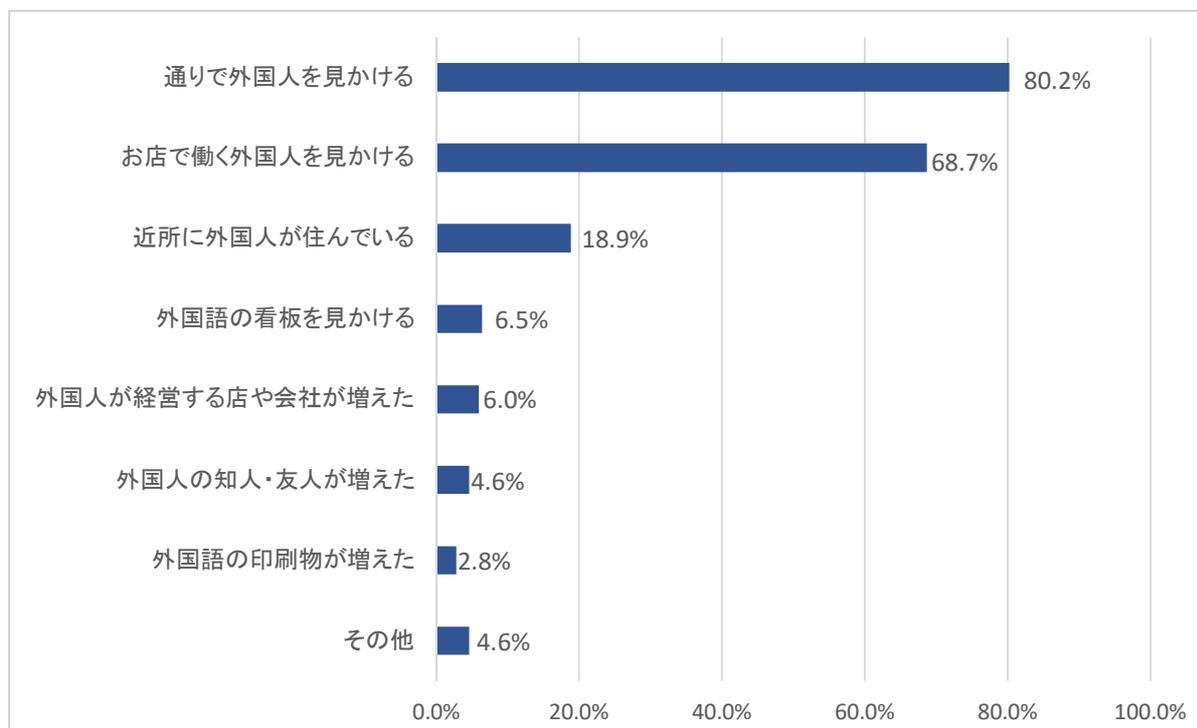
（回答者：331人）



「増えたと感じる」「やや増えたと感じる」を選択した方の割合は65.5%だった。男女による差はないが、年代別では、60代と20代がそれぞれ80.0%、78.5%と増えていると感じている人が多く、70代が、52.5%と低いという結果となっている。

問2 問1で「増えたと感じる」、「やや増えたと感じる」を選択した方にお伺いします。
地域に居住する外国人が増えたと感じる時は、どんな時ですか？（3つまで選択可）

（回答者：217人）



「その他」を選択した方の主な意見

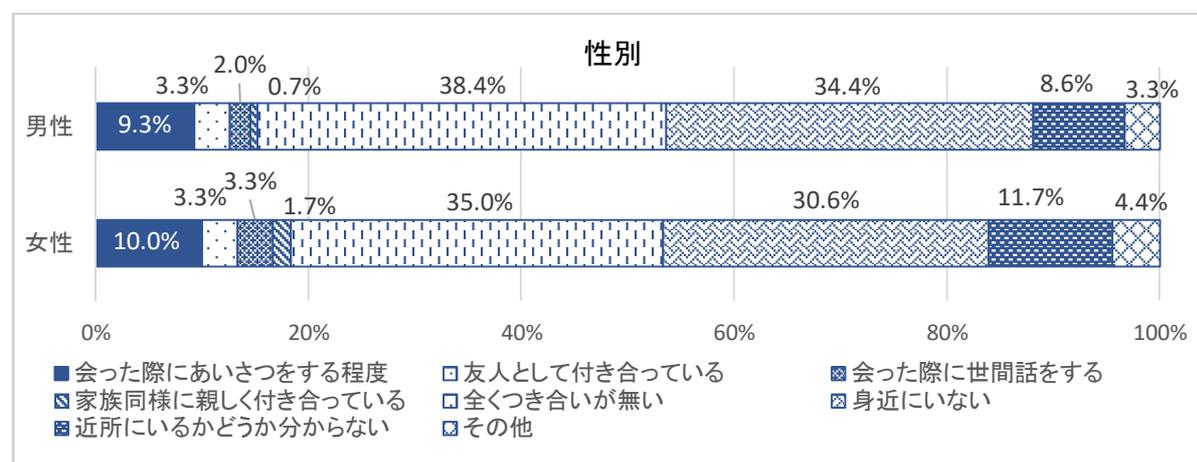
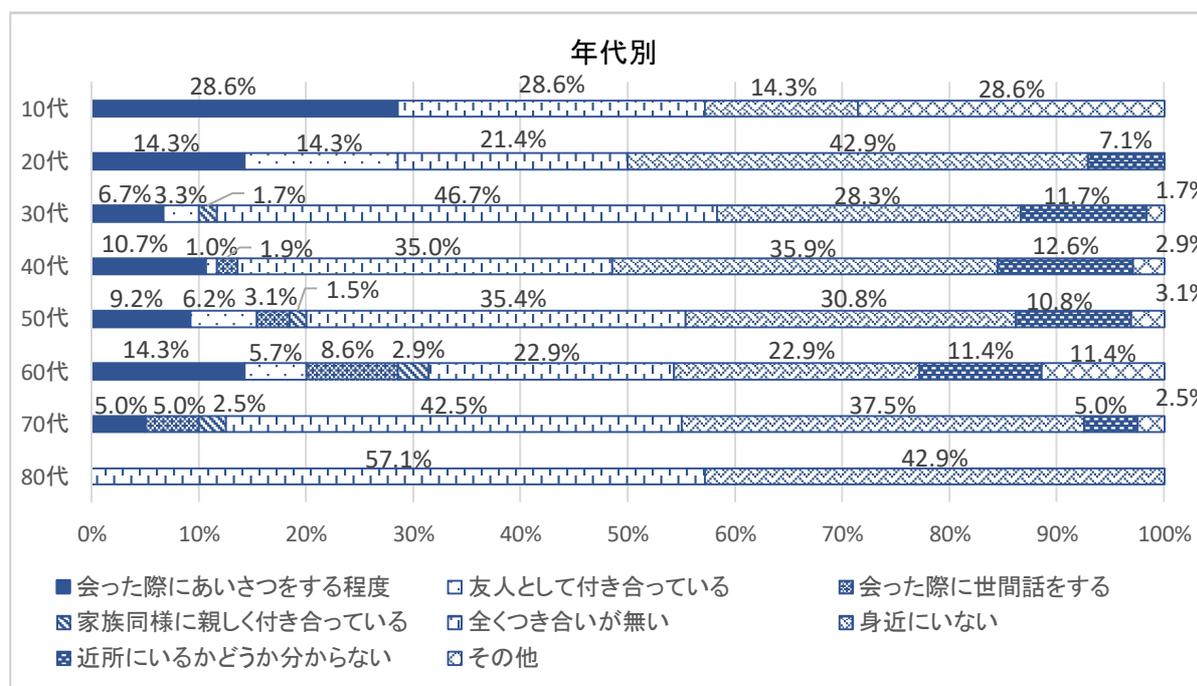
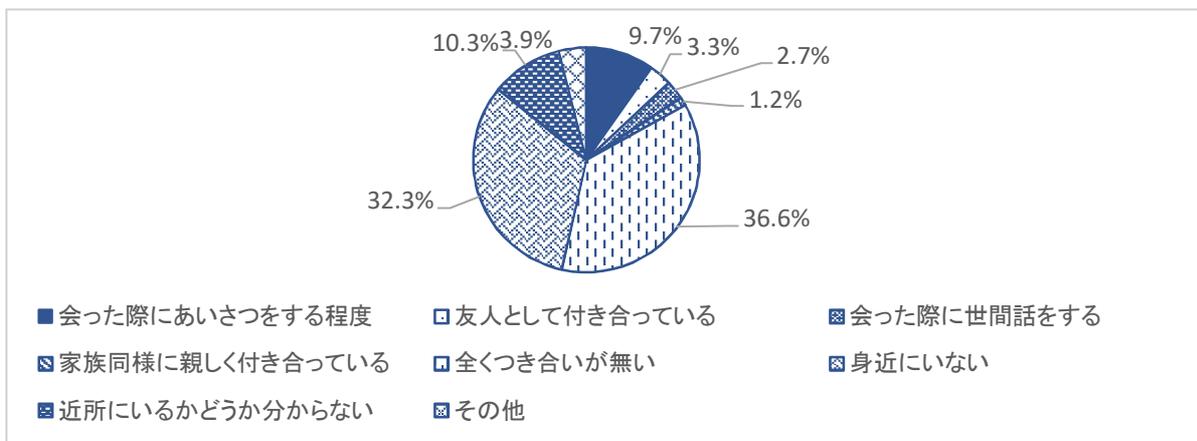
- ・子育てで出会う事がある
- ・子どもの通う学校に外国人の子どもが増えた
- ・自分が勤める会社に外国人が働いている
- ・勤務先にお客さんとして来る
- ・花見をしている外国人が増えた
- ・コンビニの店員さん
- ・買い物（スーパーマーケット）で外国人を見かける
- ・企業から外国出身者に日本語を教えて欲しいという依頼が増えた
- ・息子の嫁が外国人

「増えた」と感じるのは、「通りで外国人を見かける」（80.2%）時と「お店で働く外国人を見かける」（68.7%）時がとても多いという結果となった。

「その他」の意見で、「自分が勤める会社に外国人が働いている」、「企業から外国出身者に日本語を教えてほしいという依頼が増えた」など外国人の就労者が増えていることがうかがえる。

問3 あなたは現在、身近にいる外国人とどんなつき合いがありますか？（1つ選択）

（回答者：331人）



「その他」を選択した方の主な意見

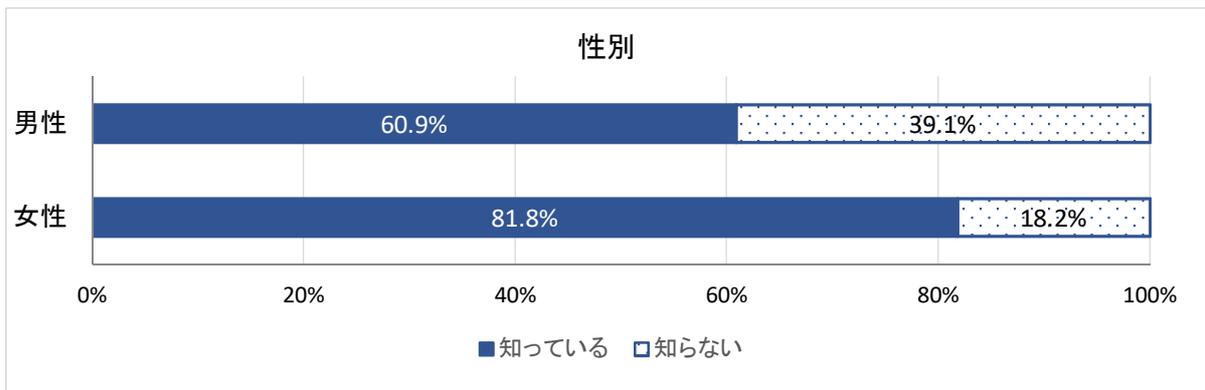
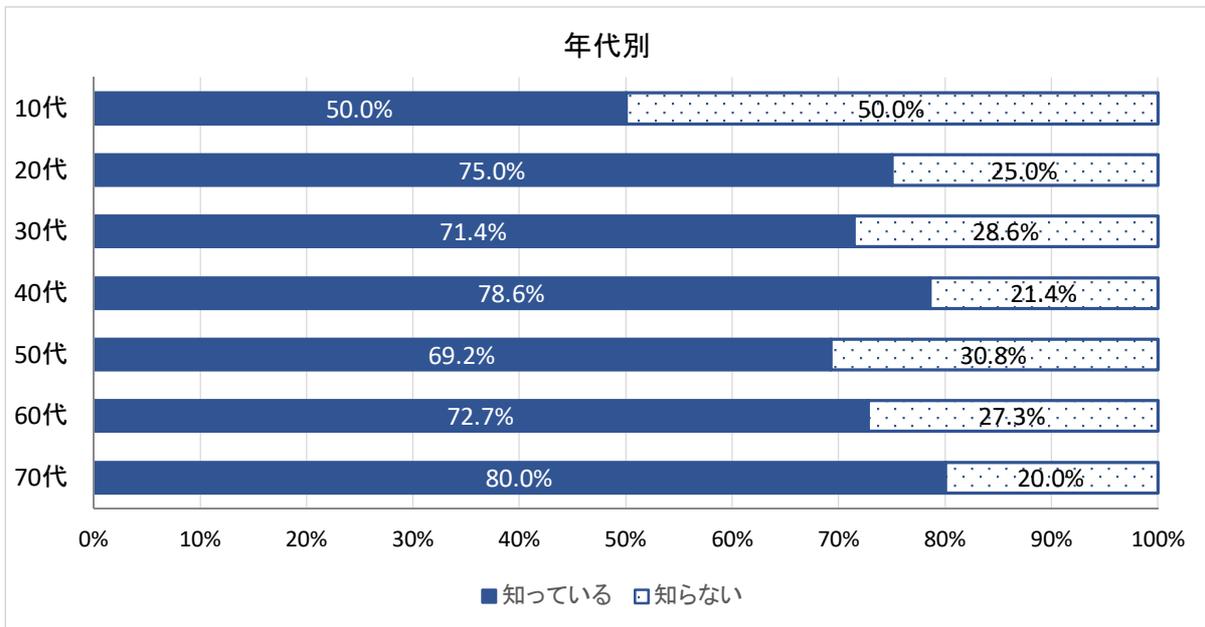
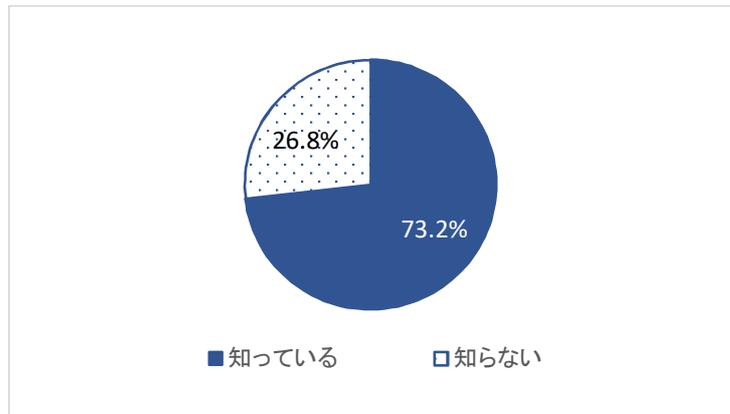
- 会社の同僚（職場にいる）やコンビニの店員
- 企業に勤める外国人への日本語指導など
- 就労する外国人について
- A E Tや英会話学校の講師と話す機会がある
- 日本語を教えたり、文化交流をしている。

外国人と付き合いがある人（あいさつ程度、世間話をする、友人として、家族同様）が、56人（16.9%）、付き合いが無い人（全く付き合いがない、身近にいない、近所にいるか分からない）は、262人（79.2%）となった。

外国人が増えたと感じるものの、実際につき合いがある方は、17%程度という結果となった。

問4 問3で「友人として付き合っている」「家族同様に親しく付き合っている」「会った際にあいさつをする程度」「会った際に世間話をする」を選択した方にお伺いします。その方の在住理由をご存知ですか？（1つ選択）

（回答者：56人）

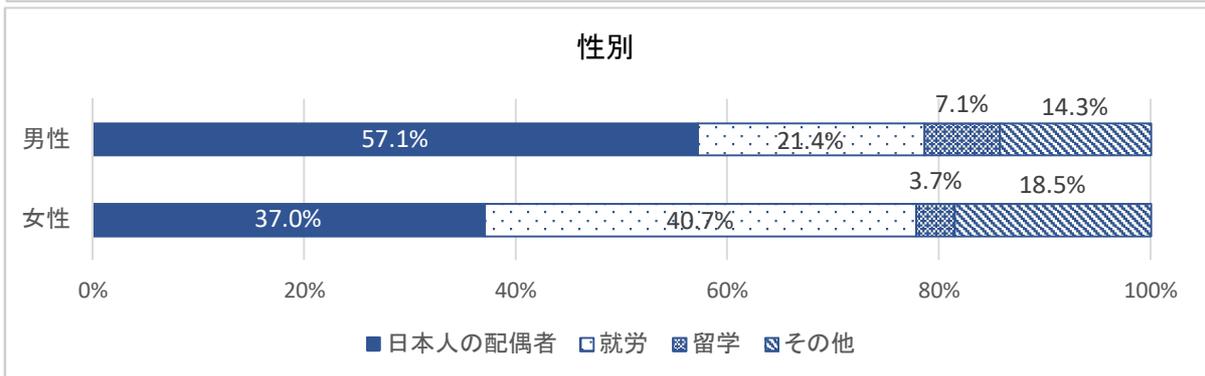
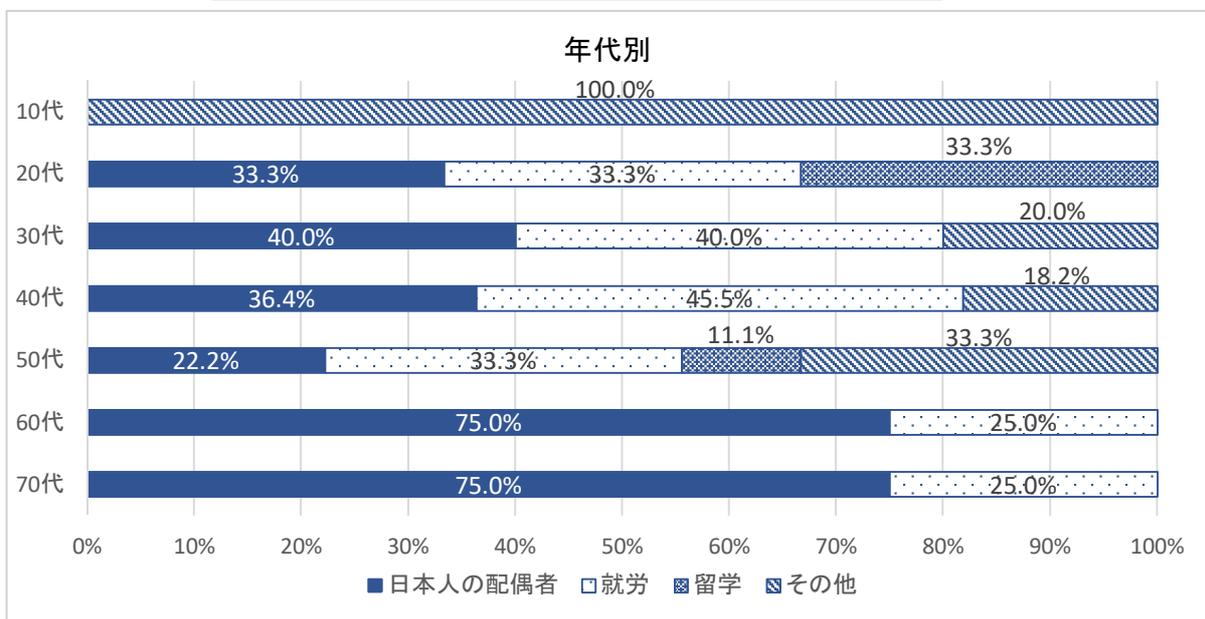
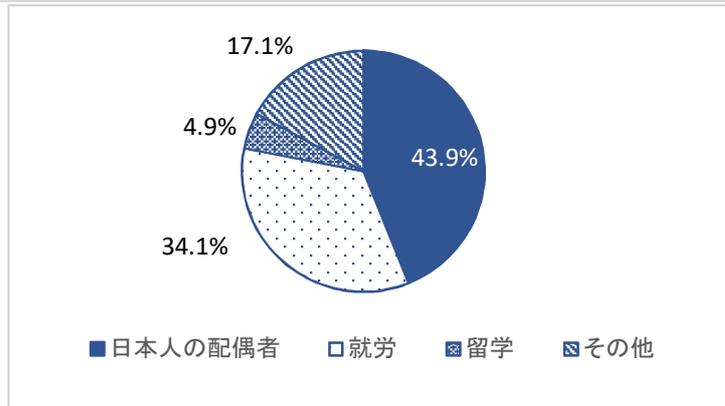


つきあい合いがある方は、概ね外国人の在住理由を知っている（74.6%）。特に、女性が在住理由を知っていることが多く（82.4%）、年代別では70代が多い（80.0%）。

問5 問4で「知っている」と答えた方にお伺いします。その理由は何ですか？

(1つ選択)

(回答者：41人)

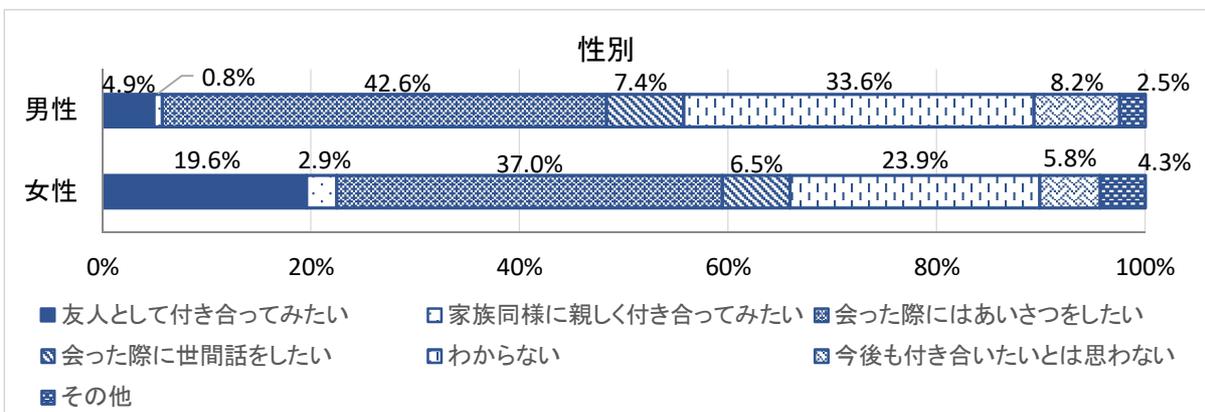
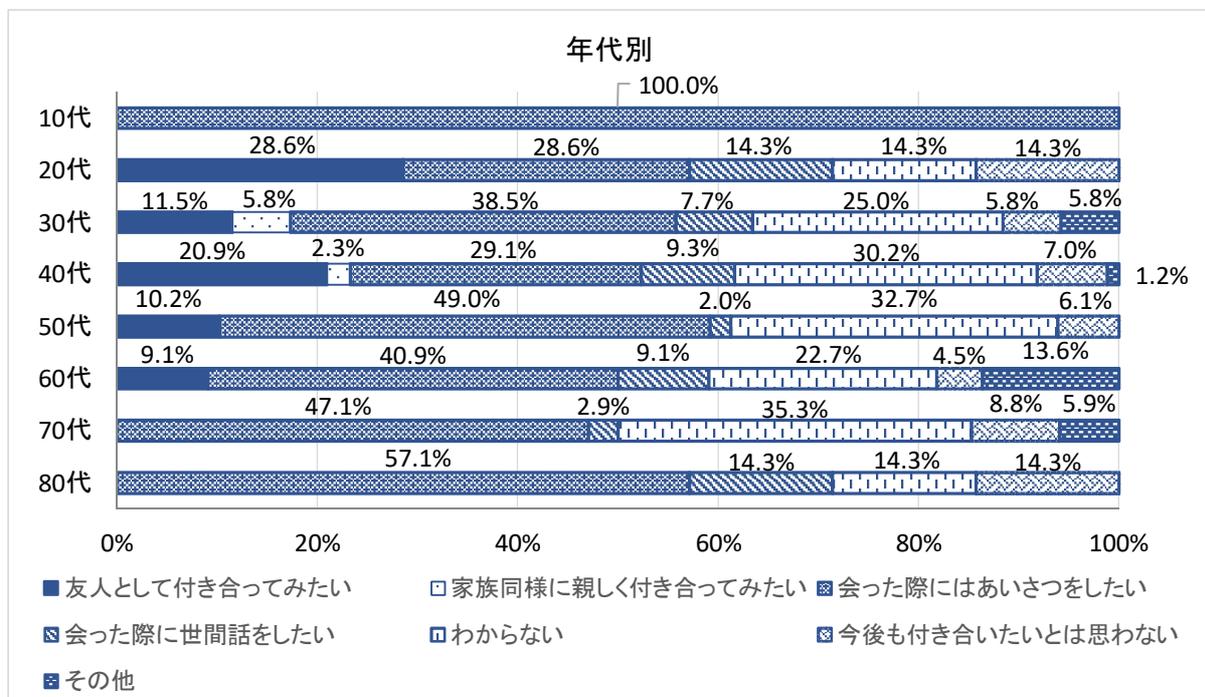
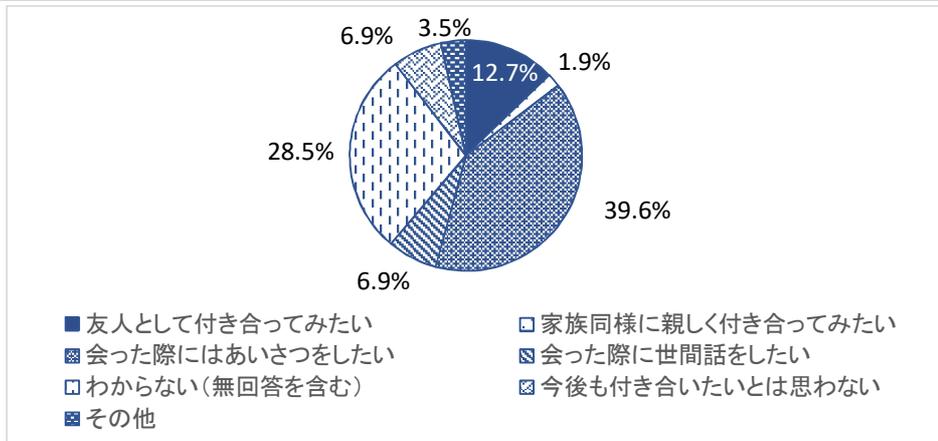


「その他」を選択した方の主な意見

永住・配偶者・就労それぞれのケースを知っている

在住理由が一番多い「日本人の配偶者」(43.2%)については、地域の活動や就労等による交流の機会が多いためと思われる。特に、60代、70代の方が、日本人の配偶者である外国人との付き合いが多い。また、20代の方は、留学生との付き合いが多いという

問6 問3で「全くつき合いが無い」「近所にいるかどうか分からない」「身近にいない」を選択した方にお伺いします。あなたは今後、近所の外国人とどのように接していきたいですか？
(1つ選択) (回答者：262人)



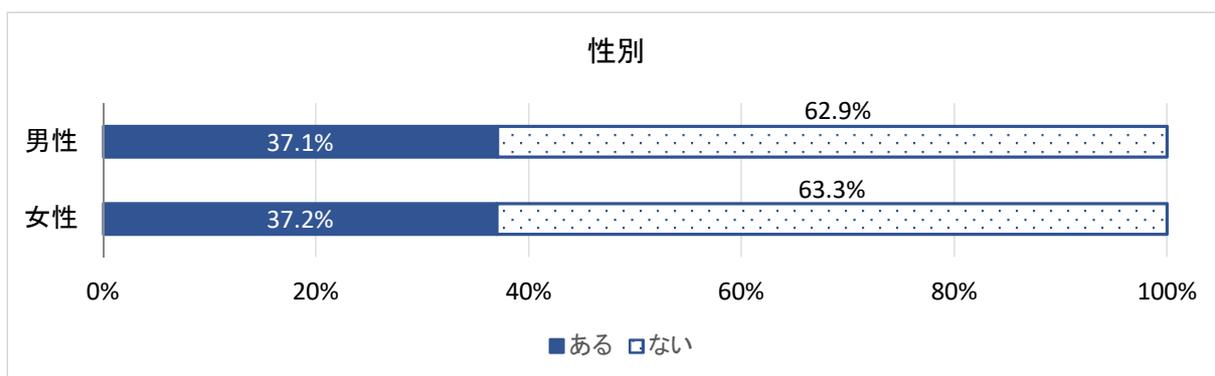
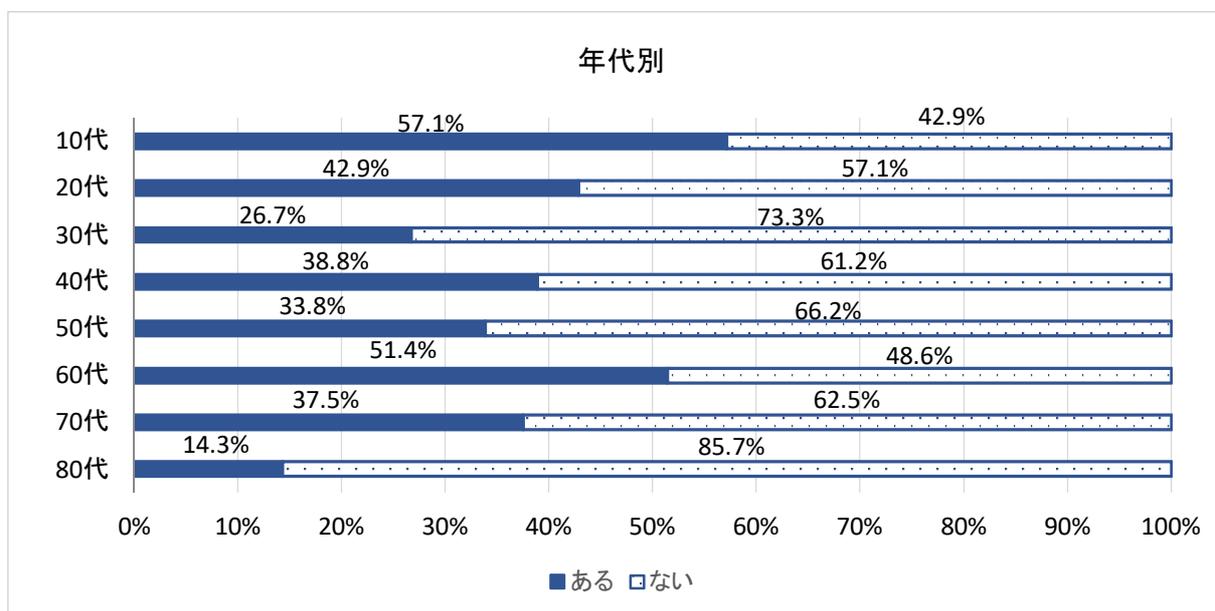
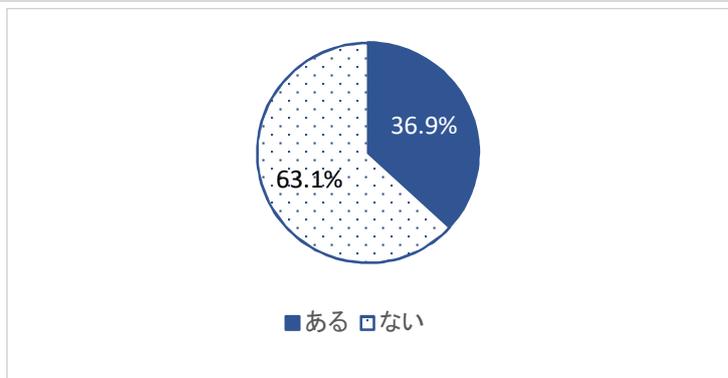
「その他」を選択した方の主な意見

- ・外国人だからという事でなく、日本人と同じつきあい。
- ・同じ町内会なら普通に町内のお付き合いはする。
- ・片言でも、日本語を話せるのであれば世間話をしてみたい。
- ・共通点多ければ友達になるかも知れないし、そうでなければ日本人と同じように挨拶くらいになる。

現在外国人と付き合いがない人の今後の外国人との接し方については、「会った際にはあいさつをしたい（39.6%）」が、「わからない（28.5%）」を上回り、次に、「友人として付き合ってみよう（12.7%）」の順となり、何らかの付き合いをしたいと考えている方は多いことが分かった（「友人として付き合ってみよう（12.7%）」、「家族同様に親しく付き合ってみよう（1.9%）」、「あった際にはあいさつをしたい（39.6%）」、「会った際に世間話をしたい（6.9%）」の合計は、61.1%）。「今後もつき合いたいとは思わない」は、6.9%。

問7 あなたは、海外の文化・習慣にふれたり、外国人と交流したりしてよかったと感じたことはありますか？（1つ選択）

（回答者：331人）

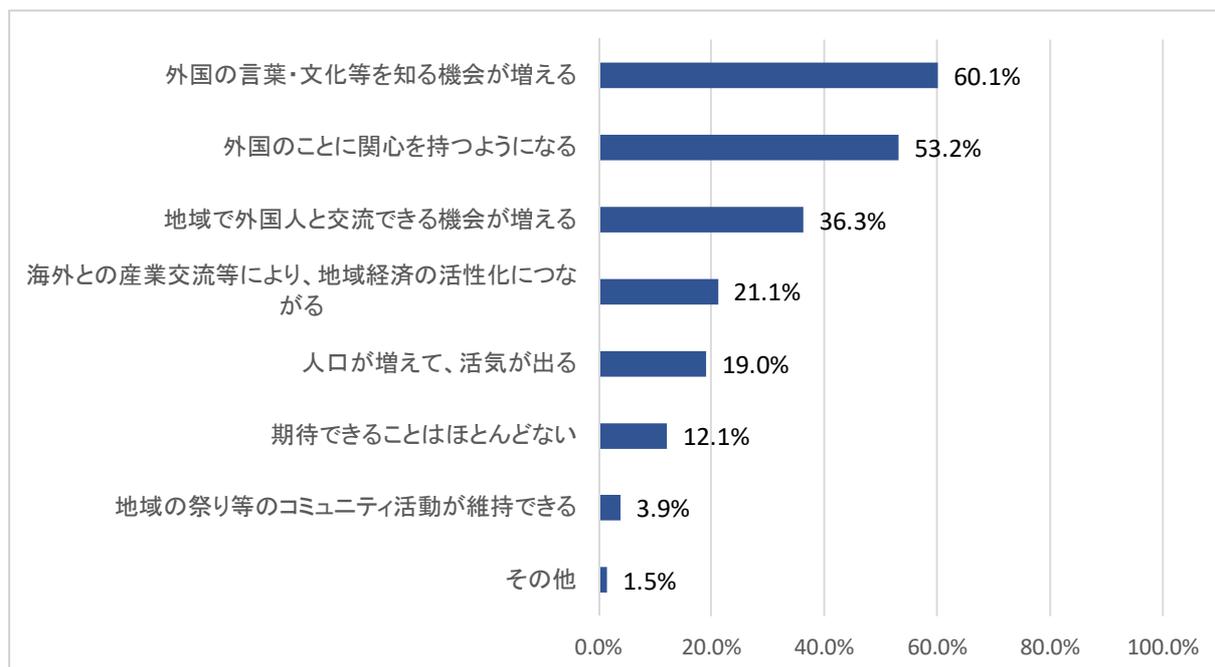


「ある」を選択した方は、36.9%で、「ある」と感じた内容は、海外旅行、留学、ホームステイ等を通じて、コミュニケーションが図れたときの感動や異なる食や慣習等を体験し、「視野が広がった」、「日本のよさを感じた」等の意見が多く見られた。

世代別に見ると、10代、20代の若い世代が「ある」と感じる割合が多く、60代も半数は良かったと感じている。半数以上（63.1%）の方が、「ない」を選択した。

問8 あなたは外国人が地域に増えることでどのようなメリットが地域にもたらされると考えますか？（3つまで選択可）

（回答者：331人）



「その他」を選択した方の主な意見

- ・国内だけの小さな価値観から多様性のある大らかで広い視野と価値観へシフトすると思う。
- ・日本の就労人口が減る中で、外国人労働者の方々には本当に感謝している。
- ・外国人から身近に感じてもらえる。安心感を与える。
- ・種々の問題が起こることを覚悟しなければならない。
- ・異文化を知り受け入れることで日本人同士の違いを認め合い伸ばしあえばブラック慣習もなくなる。
- ・文化背景が違うので問題が起きる。
- ・なぜデメリットの設問がないのか（肯定への誘導）

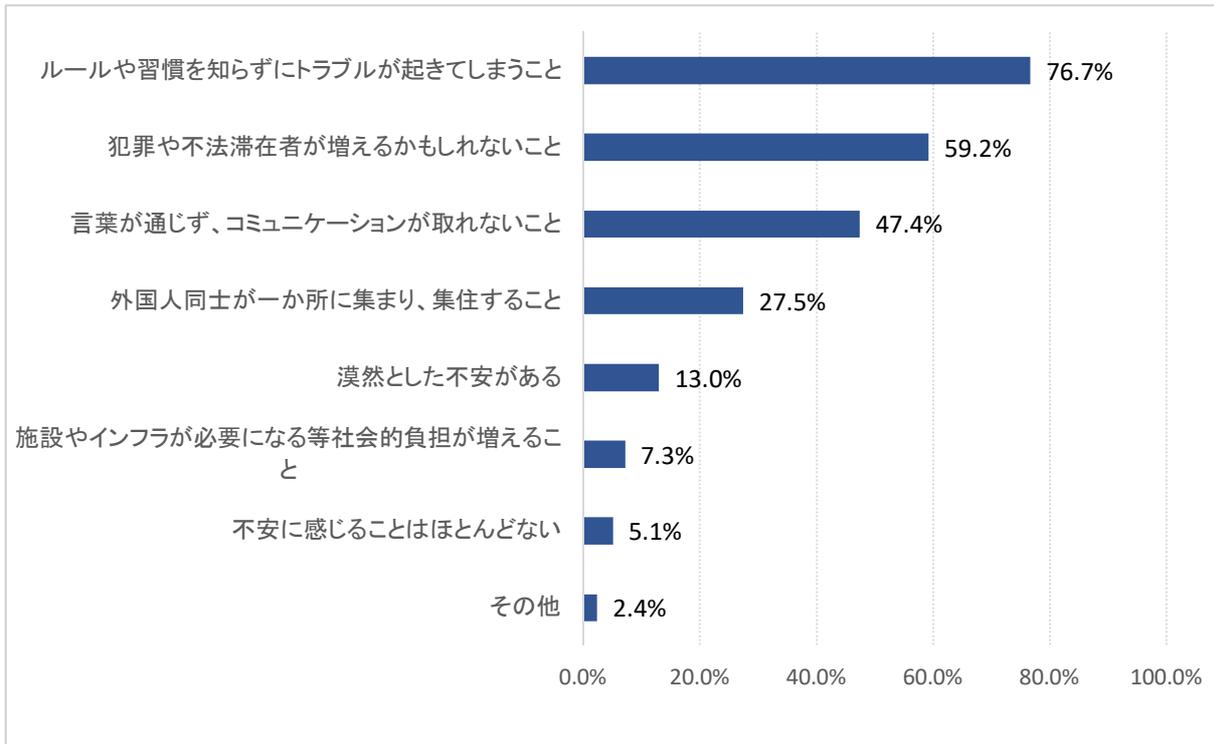
外国人が地域に増えることにより、「外国の言葉・文化を知る機会が増える（60.1%）」、「外国のことに興味を持つようになる（53.2%）」、「地域で外国人と交流できる機会が増える（36.3%）」など異文化理解や相互理解の機会が増えることがメリットとして捉えられている。

「地域の祭り等コミュニティ活動が維持できる」は3.9%で一番少なかった。

「その他」の意見としては、「多様性へのシフト」や「異文化を知ること、日本人同士の違いを認め合えばブラックな習慣もなくなる」等共生社会に関する意見が見られた。

問9 あなたは外国人が地域が増えることで、生活する上で心配や不安に感じることで、どのようなことがありますか？（3つまで選択可）

（回答者：331人）



「その他」を選択した方の主な意見

- ・外国人が、病気、怪我、災害にあった時の対応。
- ・日本に来て不安があるのは外国人のほうだと思う。手を差し伸べ交流を図るのが我々の務めだと思う。
- ・地域の人々の偏見や差別が増えることの方に不安がある。
- ・技能実習生を受け入れている企業の一部の待遇が悪く、人権侵害にならないか心配。
- ・円の流出
- ・不安ではなく日々不具合事実が沢山伝えられている
- ・外来病気が気になる

※不法滞在者

出入国関係法令に違反して日本に入国・上陸した外国人や、許可された在留期間を超えて国内に留まっている者

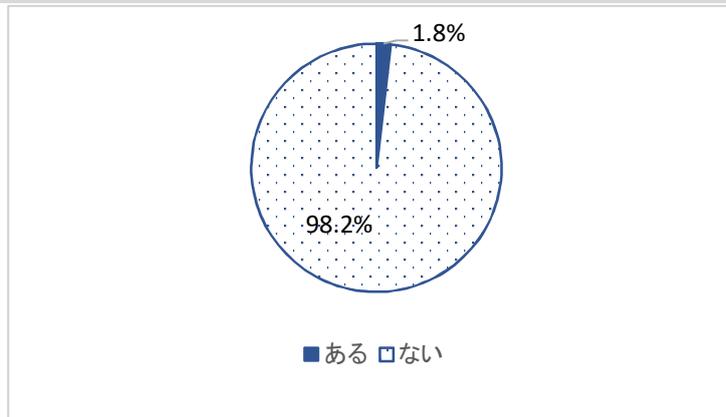
外国人が増えることで心配や不安に感じることについては、7割以上の方が「日本で生活するルールや習慣を知らずにトラブルが起きてしまうこと（76.7%）」を選択している。

次いで、「犯罪や不法滞在者が増えるかもしれないこと」を選択したのは、59.2%、半数には至らなかったが、「言葉が通じず、コミュニケーションが取れないこと」を選択した人も、47.4%いた。

「その他」の意見として、「外国人が、病気、怪我、災害にあった時の対応」や「外来病気が気になる」などの外国人への支援に関する意見が見られた。

問10 あなたは今までに、近所に住んでいる外国人と何かトラブルの経験がありますか？（1つ選択）

（回答者：331人）



「ある」を選択した方の主な意見

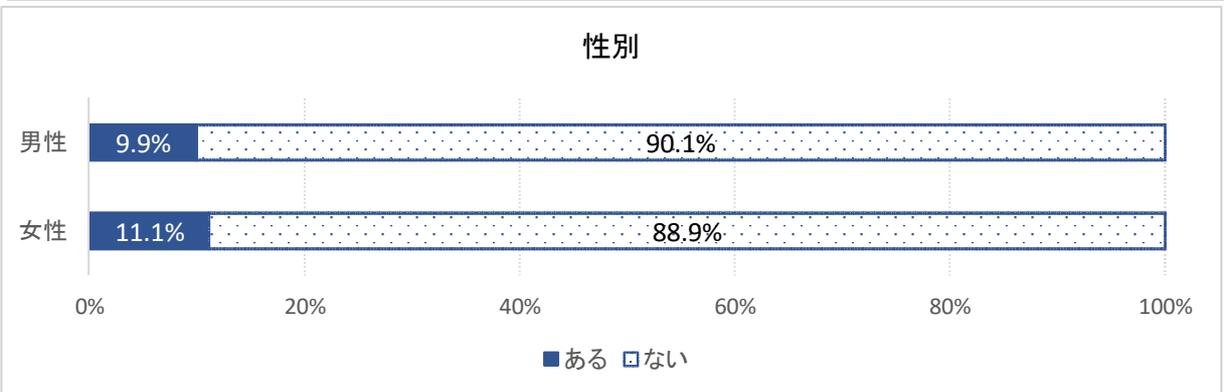
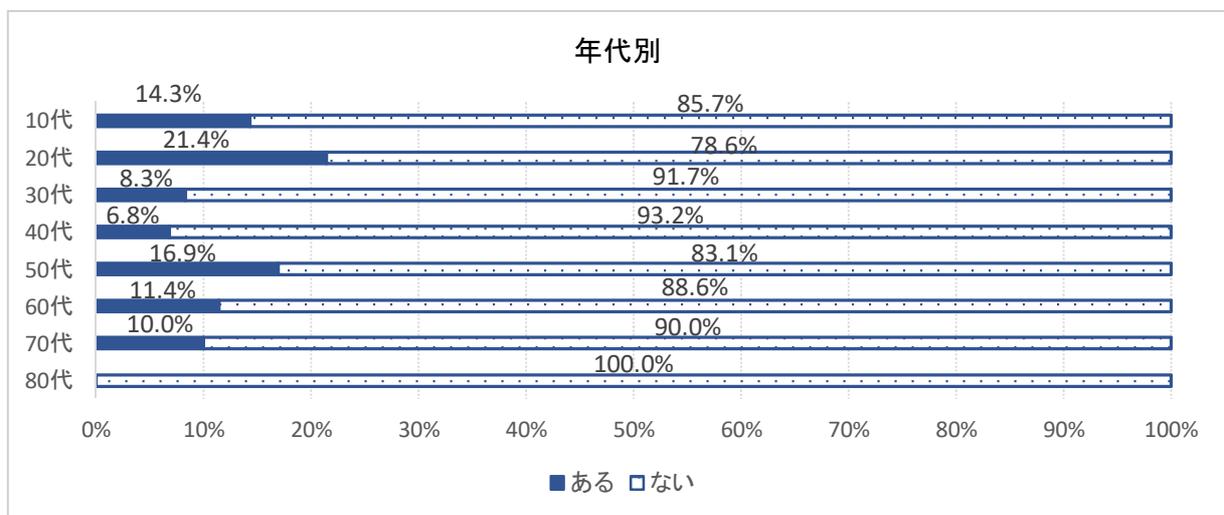
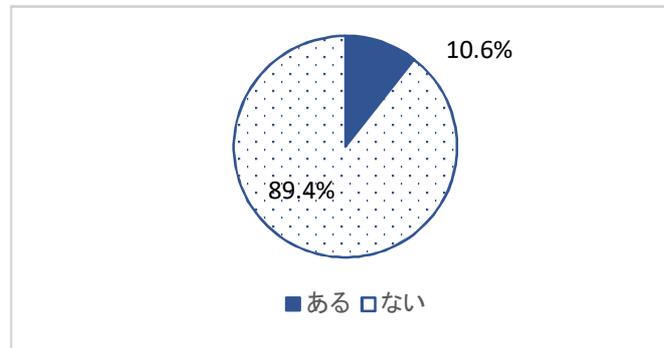
- ・仕事の依頼がドタキャンされた。
- ・騒音。音楽を大きな音でかけていたり、夜遅い時間や朝早い時間にガヤガヤ煩い。
- ・知らないふりをした交通ルール違反。
- ・並んで待っているのに横から入って来て注意しても知らんぷりをしていた。
- ・詐欺的募金の声かけ。
- ・外国人同士の喧嘩。

トラブルを経験した方は、6人（1.8%）でごくわずかという結果となった。

習慣の違いからくるものもあれば、日本人の行動と変わらないものもあり、一概に外国人固有のものとは言えないものもあった。

問11 あなたの身近で、外国人に対する偏見や差別を見たり聞いたりしたことはありますか？（1つ選択）

（回答者：331人）



「ある」を選択した方の主な意見

- ・アジア圏の人たちへの偏見・差別
- ・コンビニの外国人店員への文句
- ・就労や賃貸住宅への差別

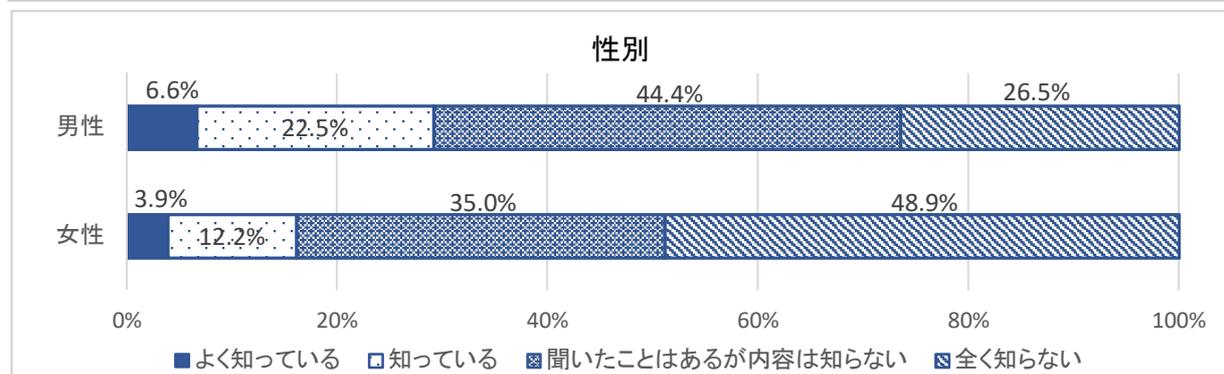
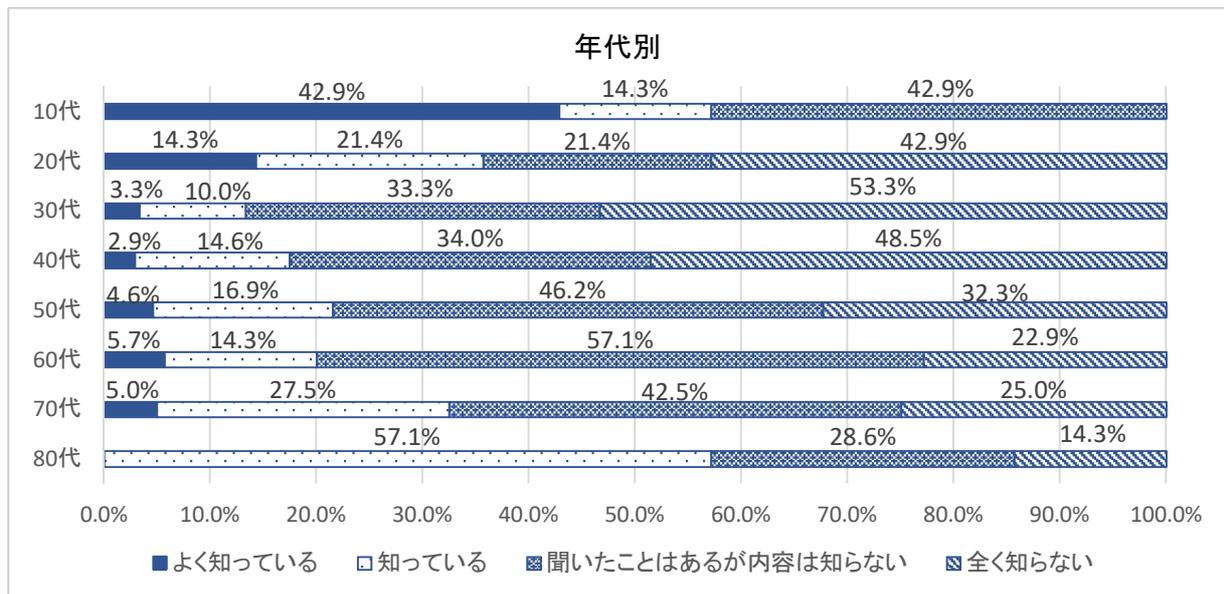
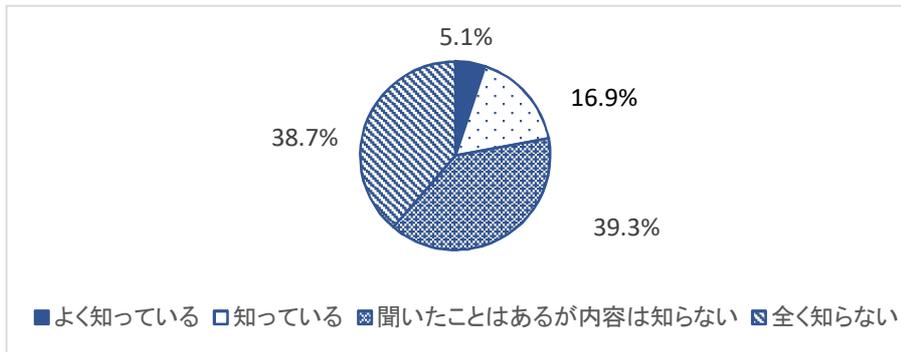
10.6%（35人）の方が、外国人に対する偏見や差別を見たり聞いたりしたことがあると回答している。

主に親族など身近な人の外国人に対する偏見や外国人店員への文句などを見聞きしている。

第2章 多文化共生のまちづくりについて

問 12 「多文化共生社会（※）」をご存知ですか？（1つ選択）

（回答者：331人）



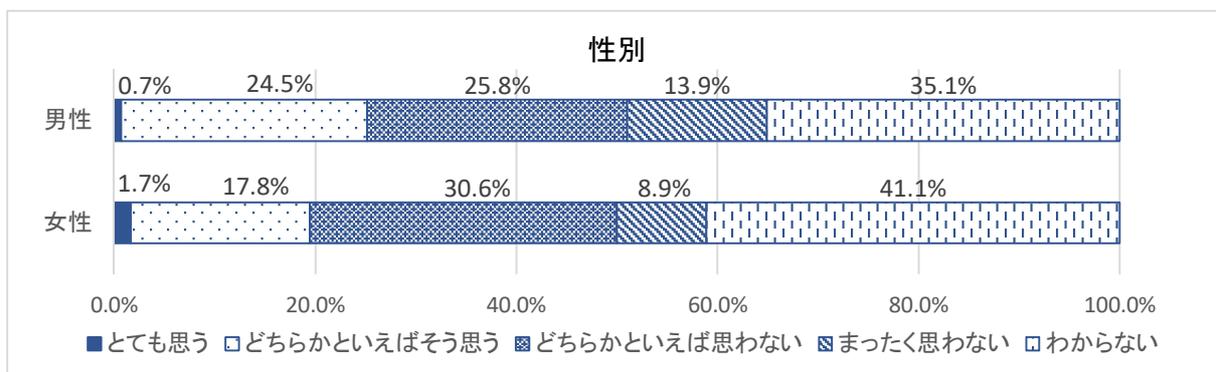
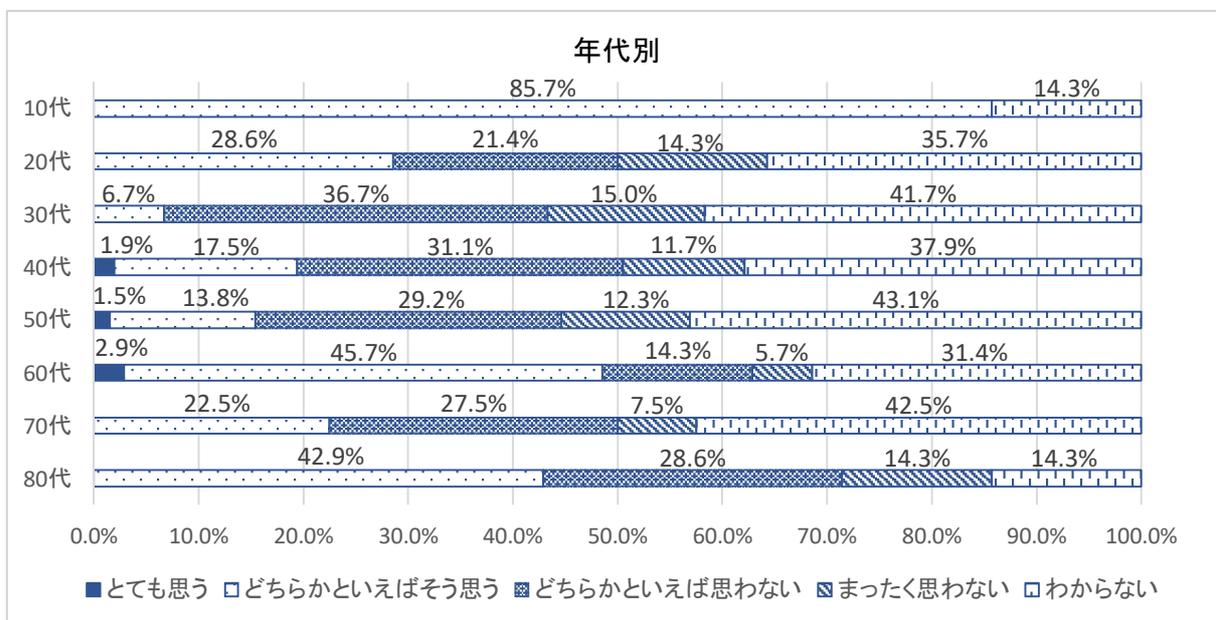
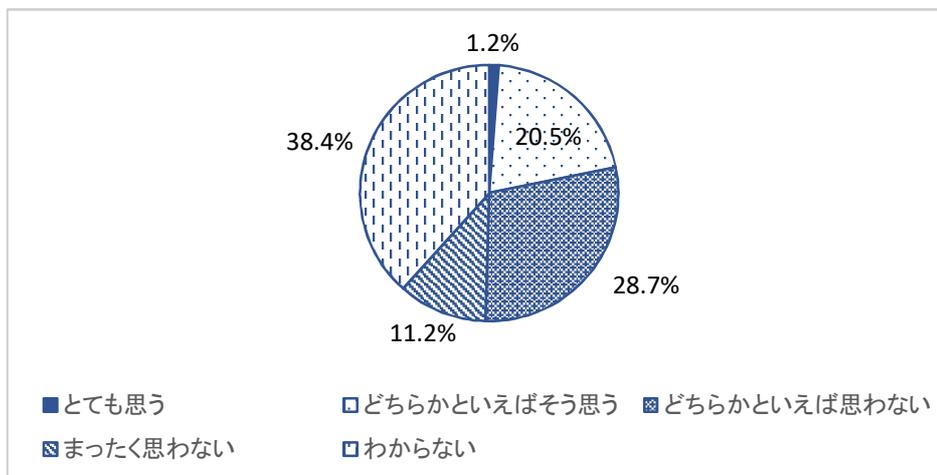
多文化共生社会について、「よく知っている」「知っている」人は、22%。女性（16.1%）よりも男性（29.1%）が知っていると答えている。

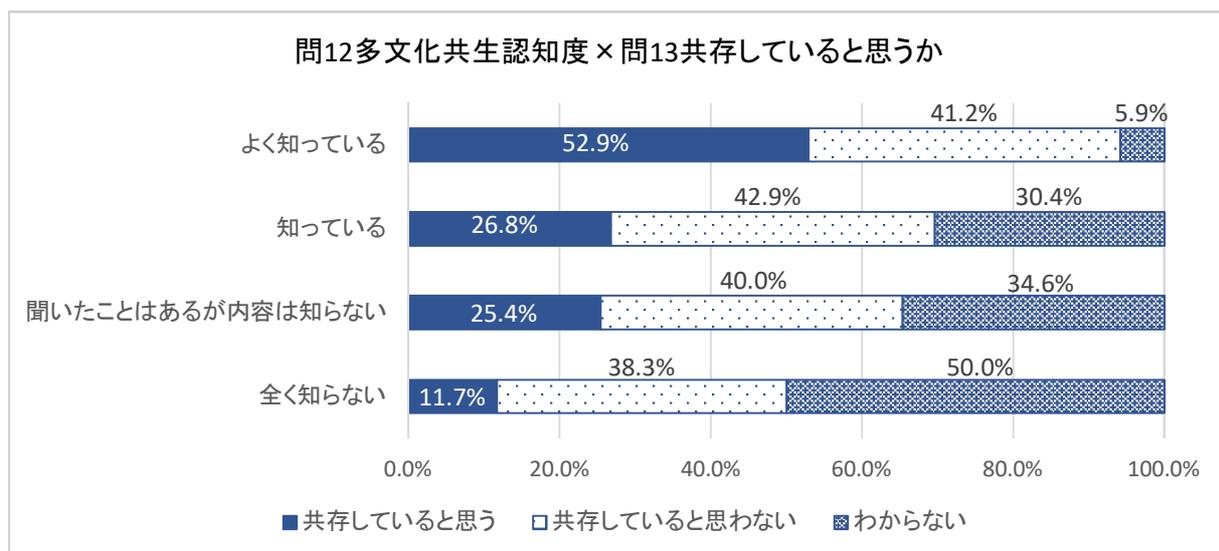
年代別にみると、10代（57.2%）と80代（57.1%）が知っている割合が高く、次いで20代（35.7%）・70代（32.5%）となり、もっとも低いのが、30代（13.3%）であった。

（※）国籍や民族等の異なる人々が、互いの文化的違いを認め合い対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていく社会

問 13 郡山市は、国籍や民族等の異なる人々が、互いの文化的違いを認め合い、共存している 「まち」 だと思いますか？（1つ選択）

（回答者：331人）





郡山市が、国籍や民族の異なる人々が、「共存している」と思う人が、21.7%（「とても思う」、「どちらかといえばそう思う」）、「共存してると思わない」人が、39.9%（「まったく思わない」、「どちらかといえば思わない」）、「わからない」が、38.4%という結果となった。

また、「共存している」を選択したのは、男性が多く（男25.2%：女19.5%）、「共存しているとは思わない」は、男女の差がなかった（男39.7%：女39.5%）。「わからない」を選択したのは、女性が多い（男35.1%：女41.1%）という傾向がみられた。

世代別では、「共存している」は10代・60代が多く、「共存していると思わない」は30代が半数以上（51.7%）と多い。

問12で多文化共生社会を「よく知っている」を選択した人は、本市が共存しているまちだと思える傾向が見られた。問12で「全く知らない」を選択した人の半数は、「共存しているまちかどうか分からない」を選択した。

問 14 問13で「とても思う」「どちらかといえばそう思う」を選択した方にお伺いします。それはなぜですか？

(回答者：73人)

73件の意見を分類すると以下のとおりとなった。

- ・ 職場やお店で働いている姿を見かける
- ・ まちの中で多く見かけける
- ・ 外国人の教師がいる
- ・ 外国人に対して親身に接している
- ・ 外国語表記の案内板を見かける
- ・ 日本語を学ぶ勉強会がある
- ・ 外国人による犯罪や大きなトラブルが少ない
- ・ 特に問題なく日常生活を送れているから
- ・ 多言語による情報発信や多言語表記がある
- ・ 海外の姉妹都市等による国際交流活動がある
- ・ 人手不足問題に貢献している

共生している理由としては、外国人を多く見かけるようになったこと、また増加傾向にあるもののトラブル等が少ないことがあげられた。

また、市の多言語対応や日本語教室、姉妹都市交流をはじめとする国際交流活動等を評価する意見もみられた。

問 15 問13で「どちらかといえば思わない」「まったく思わない」を選択した方にお伺いします。それはなぜですか？

(回答者：131人)

131件の意見を分類すると以下のとおりとなりました。

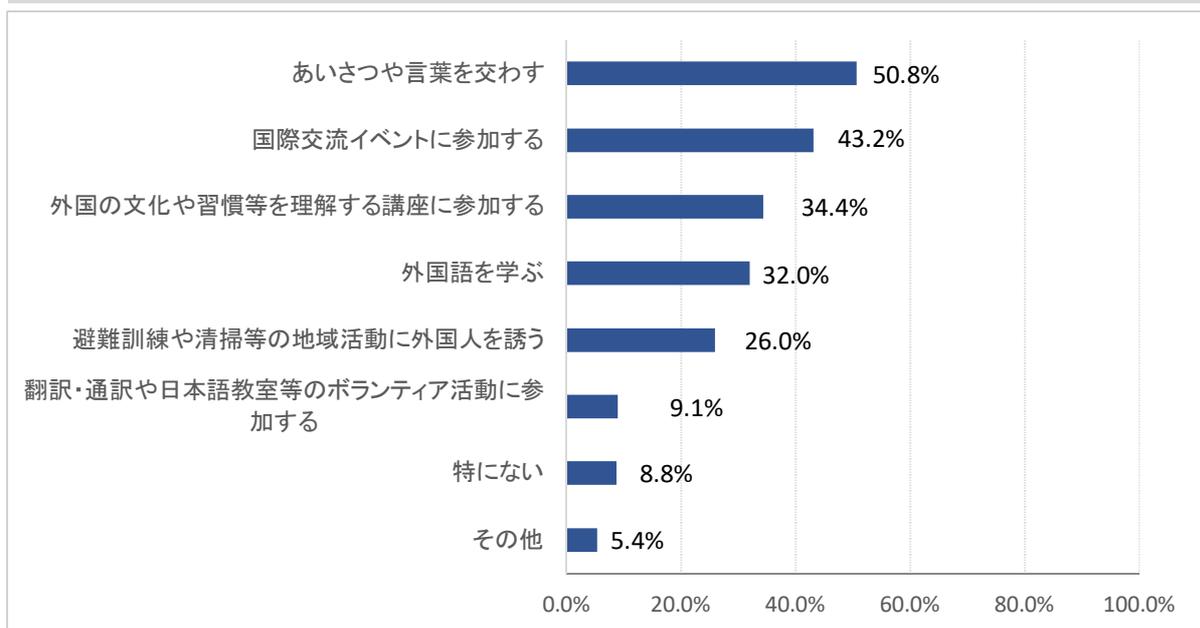
- ・ ほとんど見かけない
- ・ 外国人と関わりがないので、交流する機会がない、実感もない
- ・ 日本人がまだまだ閉鎖的で文化を受け入れない地域もある
- ・ 外国人が地域活動をしている姿を見かけない
- ・ 外国人向けや交流の活動がない、聞いたこともない
- ・ 外国人がどこに住んでいるか分からず、イメージしにくい
- ・ 施策が不十分で、外国語表記も少ない
- ・ 外国人にとって言葉や就職等が不便だから
- ・ 地域で各々暮らしているが、まだ垣根があり共生とはいえない
- ・ 共生するためには両者の努力が求められるが、期待できない

共生していない理由として、外国人が身近にいないこと、また、外国人との交流の機会もないことがあげられた。

また、多言語対応等市の取り組みが不十分であるとの意見もあった。

問16 あなたは「多文化共生のまちづくり」を進めるために、何が必要だと思いますか？（3つまで選択可）

（回答者：331人）



「その他」を選択した方の主な意見

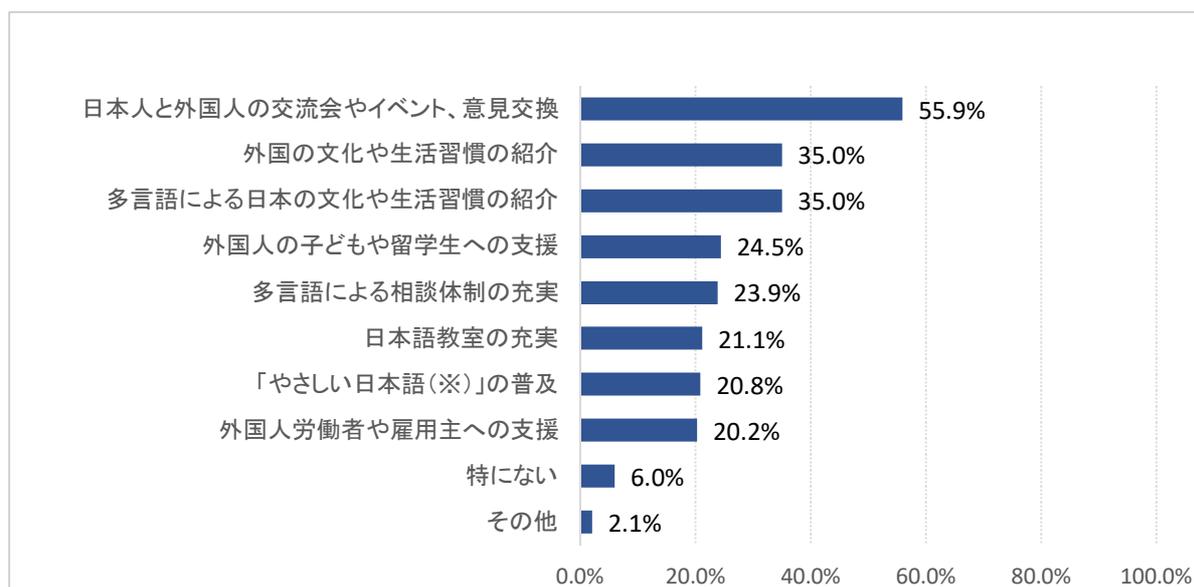
- ・外国人が日本の文化を理解してほしい（郷に入りては郷に従え）
- ・地域での受け入れ（声掛け・地域のイベントへの参加を促す）
- ・責任ある行政の施策（多文化共生イベント、日本語教育、情報発信）

あいさつや交流イベントへの参加等、直接の交流が「多文化共生まちづくり」のために必要であると選択した方が多かった。

また、「避難訓練や清掃等の地域活動に外国人を誘う」と地域での取組みの必要性を選択した方もいた（26%）。

問17 郡山市は「多文化共生のまちづくり」を進めるために、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか？（3つまで選択可）

（回答者：331人）



「その他」を選択した方の主な意見

- ・外国人が郡山市の生活に合わせる（日本の文化習慣を理解させる）
- ・多文化共生は机上の空論
- ・お隣さん意識の醸成
- ・国際交流協会の充実

「日本人と外国人の交流会やイベント、意見交換」が55.9%と最も多く、次いで「外国の文化や生活習慣の紹介」「多言語による日本の文化や生活習慣の紹介」が35.0%となっている。交流イベントや意見交換の機会の提供が必要であると考えての方が最も多く、次いで、日本人も外国人も相互の生活習慣を理解することが必要であると考えている。

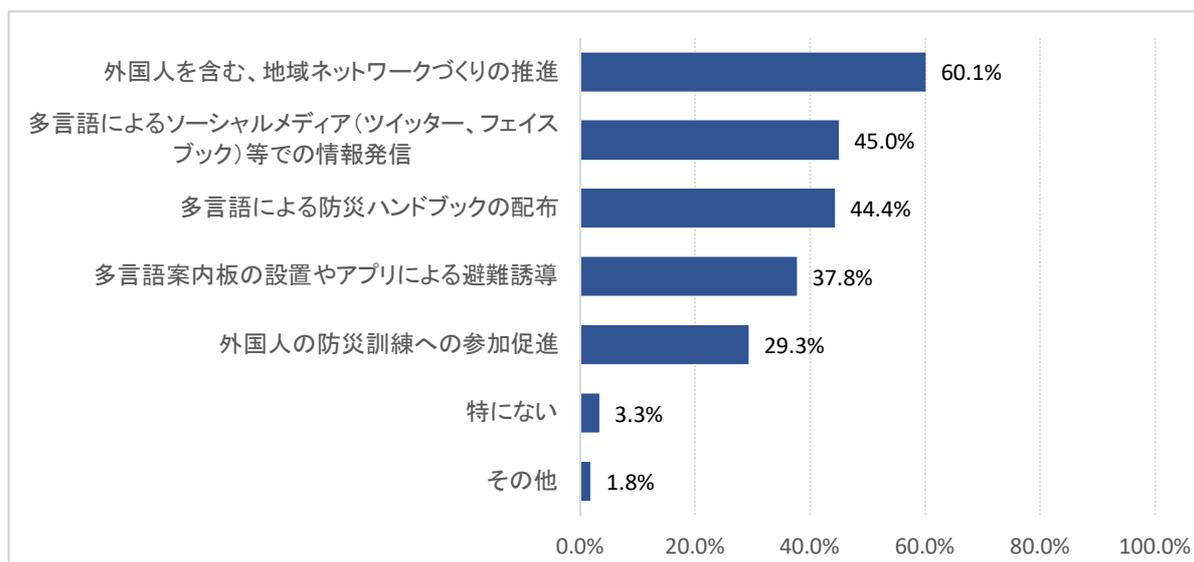
「その他」の意見として、国際交流協会の事業の充実を望む意見が見られた。

※やさしい日本語

外国人にもわかるように、普段使っている言葉(日本語)を簡単な日本語に言い換えた言葉。

問18 「多文化共生のまちづくり」において、地震や水害等の災害発生時に、外国人の安全を確保するためには、特に何が重要だと思いますか？（3つまで選択可）

（回答者：331人）



災害発生時に外国人の安全確保のために必要なこととして、「外国人を含む、地域ネットワークづくりの推進」(60.1%)が最も多く選択され、共に助け合うこと(共助)が必要だと思ふ人が多かった。

また、多言語による情報提供も必要だと思ふ人が多かった(「多言語によるソーシャルメディア等での情報発信」(45.0%)、「多言語による防災ハンドブックの配布」(44.4%)、「多言語案内板の設置やアプリによる誘導」(37.8%))。

問19 その他、ご意見がございましたら、ご自由にお書きください。（自由記述）

（回答者：331人）

多くの方が、交流の機会があれば、相互理解が深まりお互い安心して生活ができると考えている。一方で、「多文化共生の必要がない」、「多文化共生を目指す意味がわからない」、「外国人を受入れを進めて自治体として破綻する前に再考すべき」とする意見もみられた。

主な意見は以下のとおり。

・外国の方と交流したい人は意外と多いと思います。交流イベントを増やして貰いたいです。（40代 女性）

・外国人が、気軽に病院に行けるような体制が郡山にあるのか疑問です。多文化交流も良いのですが、外国人が安心して当たり前生活ができることがまず大切だとも思います。（40代 女性）

・日本人側と外国人側、双方とも互いの文化やバックグラウンドの違いを理解するよう歩み寄る必要がある。（30代 女性）

・外国人も日本社会に馴染まなくてはならない。そのための施策をもっと考えることが必要。（70代 男性）

・外国人労働者の受け入れは日本にとって喫緊の問題です。外国人自身の共生の意識も大切ですが、受け入れる側の意識も大切だと思います。（50代 男性）

・素性が不明なため不安でしかありません。お互いに誤解を生まないためにもしっかりとしたルール作りと受け入れ体制の整備が必要だと感じます。（30代 男性）

・災害時の対策も確実にしておく必要があるが、病院受診等の対応や翻訳も進めていくべきだと考える。（30代 女性）

・多文化「共生」は、受け入れる側の努力だけでは成り立たない。受け入れられる側にも努力が必要だが、彼らは日本人ではないから日本的発想でそのようなものを構築しようとしても、徒労に終わるのは目に見えている。外国人の受け入れを進めて自治体として破綻する前に、再考するべきであると考え。（50代 男性）